

京都部落問題 研究資料センター通信

第67号

発行日 2022年4月25日（年4回発行）

編集・発行 京都部落問題研究資料センター

2022年度 差別の歴史を考える連続講座

- 第1回 6月10日（金） 講師：畑中 敏之さん（立命館大学教員）
「江戸時代の身分と身分差別—江戸時代は「身分制」の社会ではなかった—」
江戸時代が構造的な身分差別の社会であったことは間違いありませんが、「身分制」の社会ではなかった。その意味について具体的にお話しする。
- 第2回 6月24日（金） 講師：吉田 栄治郎さん（元奈良県立同和問題関係史料センター所長）
「中世非人宿と近世夙村—南山城相楽・綴喜二郡を事例として—」
近世南山城には中世の非人宿につながる系譜をもつ夙村があり、賤視への抵抗運動を畿内全域で組織した。非人宿の継承や賤視への抵抗運動などについて紹介する。
- 第3回 7月8日（金） 講師：細川 涼一さん（京都橘大学名誉教授）
「中世非人と西大寺叡尊の慈善救済」
中世には非人と呼ばれる病や身体障害によって社会から脱落・疎外・排除された人々があり、京都や奈良の都市周縁部や街道沿いに集住して乞食などで生計を立てていた。西大寺叡尊の史料を中心としてこれらの人々の存在を明らかにする。
- 第4回 10月14日（金） 講師：伊藤 悦子さん（京都教育大学非常勤講師）
「学校教育からの排除と被差別部落の葛藤—統合教育と分離教育のはざま」
国民形成としての近代学校教育から被差別部落が排除された事例を紹介し、その内実について多角的に考えていく。
- 第5回 10月28日（金） 講師：中西 仁さん（立命館大学教員）
「近代京都の都市周縁と祭礼—神輿は誰が舁くのか—」（仮題）
近代京都の都市周縁の人々の祭礼参加の有様や祭礼参加が彼らに与えた影響を、「神輿舁き」に焦点を当てて考察したい。
- 第6回 11月11日（金） 講師：福家 崇洋さん（京都大学人文科学研究所）
「初期社会主義者と部落問題」
明治期の社会主義者たちは同時代の部落問題をどのように捉えたのかを機関誌の言説から読み解く。

◇時間：午後6時30分～午後8時30分 ◇参加費：無料

◇場所：京都府部落解放センター4階ホール

◇参加ご希望の方は連絡先を明記の上、前日までにFAX・電子メールでご連絡ください

本の紹介

須崎市人権史編さん委員会編

『須崎の部落史』

井岡康時

(奈良大学文学部史学科教授)

はじめに

二〇二一年一月に高知県須崎^{すさき}市に所在する被差別部落の歴史をまとめた『須崎の部落史』が刊行された。本稿は、同書の紹介を行うとともに、その作業を通じて地域の部落史研究の意義や課題について考察することを目的としている。

近年の部落史研究の進展にとともに、その多様な地域的特性が明らかになってきている。たとえば、二〇一七年刊行の東日本部落解放研究所編『東日本の部落史』全三巻は、関東・甲信越から東北地方の部落史を解明した労作であるが、このなかで第二巻所収の浪川健治「青森」は、「弘前藩領では、斃牛馬の皮革処理を村方では「正民」である百姓も行っていた」と述べ、同じく同巻所収の兼平賢治「盛岡藩における死馬利用」は、盛岡藩領内では「百姓が必要に応じて、

死馬から皮の剥ぎ取りを行っていた」ことを指摘している。『東日本』

の『部落史』編者の斎藤洋一・藤沢靖介・吉田勉三氏が一八年五月一日付『週刊読書人』三二三八号で行った鼎談において斎藤氏が「西日本から関東あたりまでは「皮剥ぎ」穢れ」と考えられてきたけれど、東北が入ってきたらそれが通用しなくなる」と述べ、

「これで部落問題がますます一筋縄ではいかなことがわかりました」と語っているが、評者(井岡)もまったく同感である(詳細は拙稿「『東日本の部落史』から考える近代の地域社会と部落問題」、『部落史研究』第四号、二〇一九年)。

二〇一五年から、評者は滋賀県人権センターの依頼に応じて、同県で第二次大戦後に進められた部落問題の解決に向けた行政、運動、

教育の歴史を探究する仕事に携わった。人権センターのスタッフとともに、史料調査を実施し、議論を重ねながら執筆・編集を進め、その成果は二一年一月に『滋賀の同和事業史』としてまとめ刊行することができた。滋賀県における調査・研究によっても、部落問題の

地域的特性を改めて深く認識した。同じ近畿圏にあっても、評者がフィールドとしてきた奈良県域とは違い、また大阪府や京都府域とも相違する近江国―滋賀県の特徴がそこにはあった。かつては、日本列島各地の事例を少しずつ集めて構成すれば、全国共通部落史とでもいったようなものができあがると考えられた時代もあったように思うが、もはやそうした乱暴な企てから部落差別撤廃の道筋が明らかになるとは思えない。斎藤氏のいうように「一筋縄ではいかない」段階に入ったといえるだろう。

これまでも地域単位の部落史は刊行されてきたが、二一世紀の被差別部落が直面する課題も視野に入れた、さらに実証的な地域の部落史研究を進めなければならぬ。そうしたなかで『須崎の部落史』

が刊行されたことを歓迎し、その成果や課題を、ここに報告してみたい。

『須崎の部落史』の成立と構成

高知県須崎市は県中央部にあって太平洋に面して所在している。同市ホームページによると、二〇二一年末現在で一万五八〇世帯、人口二万六〇三人、人口規模では高知県第八位の自治体であり、地の利を活かして農林水産業が活発に営まれている。同市の被差別部落は須崎湾に近接して所在し、『須崎の部落史』(以下、本書と記す)巻末年表によると、一九九九年では世帯数九四一、人口二一八二人で、就業人口一六三〇人中漁業が一〇九人ともっとも多くなっている。二三五頁には一九六〇年代から八〇年代にかけての職業構成の変化が示されているが、これをみても漁業の就業者比率は継続して高く、いわゆる漁村部落であると考えてよいのだろう。

こうした状況にある須崎市の部落史に関しては、本書「はじめに」によると、これまでまとめた「刊行物は特になく、関係資料の

収集や整理も部分的にしかおこなわれてこなかった」とのことであり、一九七四年刊行の『須崎市史』には部落問題についての記述がなく、「むしろ部落問題を回避して市史を描いている節さえ見られる」という。六〇年代から八〇年代にかけて刊行された自治体史には、部落問題をはじめ社会的差別や排除の問題が記述されない場合が多かったことについては、すでに幾多の指摘があるが、『須崎市史』もそうした弊を免れなかったであろう。さらに「はじめに」は、二〇一四年刊行の『須崎市史』平成二六年編においても、「簡単な記述がなされている程度に過ぎない」状況であったと指摘している。

すでに高知県では、『宿毛の部落史』（一九八六年）、『中土佐の部落史』（一九九二年）、『佐川町人権史―部落問題の解消へ―』（一九九四年）、『十和村部落史』（一九九九年）といった地域の部落史が刊行されている。こうした状況を踏まえ、「これまで部落史にかかわる刊本を発行していない須崎市の場合、『須崎市史』のなかに部落史についての記述がない

ことを考慮に入れると、宿毛市と同様に、別編として『須崎の部落史』を刊行すべき結論に達した」と「はじめに」は記している。以上のような経過を経て、二〇一六年一月に須崎市人権史編さん委員会条例が成立（本書六六〇頁）し、須崎市人権交流センターが担当部署となつて本書の編集・刊行が進められることになった。

本書は、本文が、第一章「長宗我部地検帳」における「坂の者」、第二章「近世（江戸時代）の部落の人びとの職業と生活」、第三章「近代の部落の人びとの生活と差別」、第四章「須崎町における改善と融和」、第五章「戦後部落問題の提起するもの」、第六章「本格的な同和行政・同和教育の展開」、第七章「同和対策」から「人権対策」への移行」の七章・三〇七頁からなつており、戦国期から現代にかけての須崎の部落史が記述されている。さらに三四九頁があられた資料編は、近世から現代までの二一点の資料とともに、第二次大戦後の地元紙『高知新聞』の部落問題関係記事一五四点を掲載し、加えて第二次大戦後の主な差別事件四二件の概要が記されている。巻末には一九頁からなる詳細な年表が付されており、全体で六八三頁に及ぶボリューム豊かな書籍となつている。

『須崎の部落史』が明らかにしたこと

次に七章からなる本文が明らかにしたことについてまとめておく。

第一章は二節からなり、「一 長宗我部地検帳」における「坂の者」では、戦国大名の長宗我部氏による「長宗我部地検帳」に記載された「坂の者」の分析を行い、中世被差別民の様態と近世への接続について論じられている。

「二 被差別部落の起源をめぐって」では、近世初頭の須崎において進められた「堀川の開鑿」と呼ばれる事業によつて、元からいた「坂の者」に加えて、新たに土木工事の労働者として動員された人びとが、近世の被差別部落を構成したと推測されている。

第二章は四節からなり、「一 検地と「掃除給」」では、部落寺院である円教寺の文書を用いて年貢免除地である「掃除給」地や領

主から課された役について検討を行い、「二 部落内の支配関係と生活」では、文久元年（二八六一）の史料などから被差別部落内に一名の「長吏」と三名の「加役」が置かれて統治が行われていたことが明らかにされるとともに、生活状況としては「役負担としての「掃除役」と農業、草履作り、皮細工などに従事し、漁業には従事していなかったと思われ」（六〇頁）るとしている。「三 宝永・安政の大地震と災害」では、近世の二度にわたる大地震と津波被害について、「四 宗教」では、部落寺院円教寺と地域の今清神社をめぐる諸関係について記されている。

第三章は四節からなり、「一 解放令」発布にともなう変化」では、「解放令」にもなつて須崎の被差別部落においても「みそぎ」が行われたとの伝承が紹介されるとともに、今清神社の社格について述べられている。「二 学校教育のはじまり―刈谷簡易小学校から須崎尋常小学校へ―」では、円教寺に設けられた小学校や、その後の学校統合の際に受けた排除

について、「三 部落の困窮化と部落改善の開始」では、「掃除給」の廃止による変化と、一八八九年ころから始まる「夜学会」の設立による生活改善や自由民権運動への接近について述べられている。

「四 部落の漁業の進展」では、明治期以降に急速に漁業へ進出していったようすが述べられている。

第四章は五節からなり、「一九一〇年代の部落改善」では、全県的に部落改善の取り組みが行するなかで一九一六年に設けられた部落改善会の活動が紹介され、「二 部落名の呼称の変化―「刈谷」から「琴平」へ―」では、改善を進めるなかで地名改称の議論が生まれ二六年に実現した経緯が記されている。「三 大正・昭和期の融和親善」では、高知県道会の一組織としての須崎町公道会や、これを改組して二九年に結成された須崎町融和会の活動について述べられている。「四 昭和恐慌以降の地方改善」では、国の地方改善応急施設事業を受けた須崎町による事業の内容や、須崎小学校が融和教育研究指定校となり実践を重ねたようすが記され、「五

戦時下の部落」では、須崎町融和会が三七年に再び高知県道会の須崎支会となったこと、四一年からは同和奉公会に組み込まれていったようすが述べられている。

第五章は五節からなり、「一 『須崎町史』問題の噴出」では、一九一〇年代に作成された『須崎町志』の記述の差別性を四八年に被差別部落の青年団長が指摘し部落民大会を開くなど第二次大戦後の運動が開始したようすが、戦後の漁業や長欠・不就学の実態が述べられている。「二 市制発足と部落解放の方向」では、五四年に市制が施行された須崎市行政のもとで進められた施策や隣保館の活動について記されている。「三 朝日新聞記者差別事件」では、五八年に発生した朝日新聞須崎通信局長による差別事件、「四 浦ノ内差別傷害事件」では、翌五九年に須崎市内で発生した差別傷害事件を取り上げ、連続して発生した二つの差別事件が市政や部落解放運動に与えた影響について述べられている。「五 同和地区モデル事業の実施」では、国の同和地区モデル事業の一環として六一年か

ら実施された事業の内容について述べられている。

第六章は六節からなり、「一 同和对策事業の軌道化」では、一九六四年ころから本格的に開始される須崎市の同和对策事業について、「二 同和对策事業特別措置法の制定」では、六八年の須崎市同和对策審議会の設置や翌年の国の特別措置法公布を受けた同和对策の事業内容について記されている。「三 同和教育の展開」では、六九年策定の須崎市同和教育基本方針や、七五年と八三年の二回にわたって須崎市が刊行した『部落白書』の内容などについて、「四 差別葉書事件をうけて」では、九〇〜九一年にかけて発生した現職教員による差別葉書送付事件について述べられている。「五 小集落地区改良事業の実施」では、八三年度から始まった小集落地区改良事業について、「六 法以後を見据えて―一九九七年の須崎市同和对策審議会答申―」では、九七年の須崎市同和对策審議会の答申内容が紹介され、ハード面での事業終了後の二一世紀に向けての課題について記されている。

第七章は四節からなり、「一 須崎市人権尊重の社会づくり条例」

では、一九九四年の須崎市による人権擁護都市宣言、九八年の須崎市人権尊重の社会づくり条例について、「二 『須崎市同和地区生活基本調査』の実施―特別措置法終了後に向けて―」では、九九年実施の生活基本調査の結果について述べられている。「三 人権教育・啓発の推進」では、須崎市人権教育研究協議会の取り組みについて、「四 市民館から人権交流センターへ」では、六五年に隣保館から改められた須崎市立市民館が二〇〇二年に人権交流センターに改編されたことについて記されている。

『須崎の部落史』に対する感想と若干の疑義

本書の内容は以上の通りであるが、最後に感想と若干の疑義を呈しておく。

まず全体的な感想として本文編の執筆スタイルについて述べておきたい。「はじめに」のなかで編さんの留意点として、「史料に語らせるという手法を多く使用した」と記されている。確かに本文中に

は多くの史料が掲載されているのだが、解説が少なく、これでは読者の理解が深まらないように思われる。「史料に語らせる」というが、その語りを引き出すことが執筆者の仕事である。史料からいかなる解釈が可能か、地域史のなかにどのように位置づけられるかなどといったことを執筆者は明確に述べる必要がある。読者は、その執筆者の見解と格闘しながら自分の歴史像を形成していく。よりの多くの史料を提示して、その解釈は読者に任せようということだろうが、執筆者の考えをもっと豊かに明示してもらわないと読者は困惑するのではないだろうか。

次に疑義を二点。一点は漁村部落という性格にかかわることである。前述のように、近世の須崎の被差別部落は「漁業には従事していなかった」（六〇頁）との判断が示されている。しかし、「解放令」の後に「狭隘な土地での農業から目の前の須崎湾での漁業への進出へと大きく舵を切った」（九〇頁）というのである。評者は漁業の生産・労働慣行にはまったく不案内であるが、そのような

簡単に「舵を切」れるものだろうか。前掲の一九七四年刊行『須崎市史』第三章第二節「漁業」（四二六〜四五〇頁）を読むと、浦奉行のもとで、漁場が区分して設定され、使用する網に関する規約や浦方役所への口銀上納などに関する規則などが細かく決められている。農業にあつては水利権や里山の入会権をもたない新参者が容易に参入できないように、漁業においても「目の前」に海があるからといってただちに船を出したり網を入れることは不可能ではないのか。近代以降の漁業の就業状況を見ると、この被差別部落は少なくとも近世から須崎湾の漁業に一定の権利と実績を有し、地域においても承認されていたから、当然のこととして漁業を営むことができたと考えるほうが合理的ではないかと思うが、これは漁村に無知な評者の妄言であろうか。ことは漁村部落としての基本にかかわる問題であり、今後の史料調査のなかで明確にしていだきたいと考える。

もう一点は第二次大戦後の部落解放運動についてである。一九四

八年に『須崎町志』の記述に対して部落民大会を開催して抗議したことが戦後の運動の嚆矢であると思われるが、それから一〇年後に発生した「朝日新聞記者差別事件」や「浦ノ内差別傷害事件」では、こうした住民の一体性は失われ、事件の処理をめぐる部落解放同盟須崎支部と袂を分かつた融心会・同和対策推進会の二組織が誕生し、「部落内に三団体が林立」（本書一七〇頁）という事態になったという。このような分岐がなぜ生じたのか、このことが戦後の高知の部落解放運動にどのように位置づけられるのか、こうした点に関する分析や説明が不十分であるために、運動の変化に唐突感が否めない。戦後の部落解放運動の歩みを府県単位でみていくと、部落解放同盟の組織が大きな力をもって政治的にも社会的にも影響力を発揮できた所もあるが、そうした府県は限られており、逆に須崎のように複数の組織が競合した場合が少なくない。差別や排除をなくし人権尊重の社会形成に向けた道筋を展望するためには、戦後の部落解放運動の歴史を部落解放同盟の歩

みとしてのみ語ってしまうと視野が限られるのではないだろうか。保守的なものも含めた、いくつもの運動による部落差別撤廃の可能性の生起消滅のヒストリーとして語り直す必要があると思う。須崎の事例についてもさらに説明を進めていただきたい。

小論は二〇二二年三月半ばに執筆しているが、終息のみにない感染症の蔓延やロシアによるウクライナ侵略などにより社会的な不安感が高まりつつある。こうした時こそ生活に根ざした地域史を構築する意義は大きい。礼を失した贅言を重ねたとは思いますが、出版条件のきびしいなかで本書の刊行にあたられた関係者のご努力とご労苦に敬意を表したい。

（須崎市刊、二〇二二年一月）



「地对財特法」失効に伴う混迷と新たな運動への転換
谷元昭信

部落解放研究 28 (広島部落解放研究所刊, 2021. 12) :
2,000円

小森龍邦さんを偲んで 岡田英治

部落解放運動と女性の権利 山下直子

メディアにおける差別表現問題の現況と課題 小林健治

部落差別と生産性言説批判—就職差別に抗して 小早川
明良

第三期部落解放運動と差別の記憶 坂本真司

女性技能実習生の「闘い」—縫製業で働くベトナム人女
性の事例から 川越道子

釜ヶ崎における「まちづくり」のプロセスと野宿者の追
い出し問題 中村葉子

広島県の教育現場の実態と課題 森崎賢司

「是梅(旃)陀羅」解釈に関する備後教区方法論の問題
2 沖和史

偽りの「暴力と犯罪」論—同和対策事業「補助金」の真
実 青木秀男

部落解放研究 216 (部落解放・人権研究所刊, 2022. 3) :
2,000円

特集1 包括的差別禁止法の制定をめざして

包括的差別禁止法の意義とその制定に向けた課題 内田
博文／部落差別解消推進法の強化改正の検討 奥田均／
障害者差別解消法改正の動向と課題 崔榮繁／「LGBT」
をめぐる差別禁止法制の動向と課題 下平武／水俣病の
歴史と差別の実態 田尻雅美

特集2 国連文書の検討とその活用の可能性

自由権規約における移民と先住民族の共通性と異質性
小坂田裕子／女性に対する暴力に関する国際的文書およ
び機関の相互作用と連携 近江美保／若者 (Youth) と人
権—2018年国連人権高等弁務官報告書に焦点をあてて
菅原絵美／感染症対策における偏見・差別への対応に関
する一考察—国連ハンセン病差別撤廃に関する特別報告
書の日本訪問調査報告書を手がかりに 棟居徳子／非拘
束的文書にもとづく国際人権基準の形成と展開—LGBTQ/
SOGIESCに関するジョグジャカルタ原則の挑戦 谷口洋幸

部落解放研究くまもと 83 (熊本県部落解放研究会刊,
2022. 3)

「狭山」と私—石川一雄さんの完全無罪をともに勝ち取
る為に— 磯田浩隆

種子島流人漂流一件 その二 矢野治世美

部落問題研究 239 (部落問題研究所刊, 2022. 2) : 1, 1
63円

特集 全国水平社創立一〇〇年 その1 部落問題文芸作品
の発掘と解説

部落問題文芸作品発掘 その16 水平運動展開期の文芸作
品とその書誌情報・解説 秦重雄

幕末江戸の場末門前町と身分的周縁—乞胸の龍光寺門前
への集団的移転を事例に— ジョン・ポーター

部落問題研究 240 (部落問題研究所刊, 2022. 3) : 1, 1
63円

特集 全国水平社創立一〇〇年 その2 近現代部落問題の
歴史的研究の視角と史料

部落問題の解決過程と部落問題研究の発展について—鈴
木良・佐々木隆爾の研究を中心に— 広川禎秀／近現代
「部落問題の歴史的研究」が射程に置くべきもの—鈴木
良の研究と構えに学びつつ— 大森実／第一次世界大戦
期の奈良県における大字=区と部落改善運動—奈良県旧
南葛城郡大正村大字西松本と西松本矯正会— 竹永三男
／史料紹介「三好文庫」所収「水平社幹部調」(抄)
西尾泰広／北原泰作文書にみる地域の部落解放運動—部
落解放全国委員会和歌山県連合会「再建大会議案書」—
本井優太郎／『水平新聞』の研究—「水平新聞を読む
会」の報告 尾川昌法

ゆいばる 44 (姫路市人権啓発センター刊, 2022. 2)

特集 水平社宣言100年から学ぶ～部落差別解消への道、
熱と光を受け継いで～

リベラシオン 184 (福岡県人権研究所刊, 2021. 12) :
1,320円

福岡・西戸崎の在日朝鮮人—社宅型のエスニック・コミュ
ニティ 徐阿貴

解放教育の「停滞期」における「外部」での課題 1—同
和政策、同和行政の後退に焦点をあてて— 板山勝樹
松本治一郎・井元麟之研究会資料紹介 松本治一郎旧蔵
資料(仮)紹介 5—花山清から松本治一郎への書簡—
関儀久

書評 小正路淑泰著『堺利彦と葉山嘉樹—無産政党的の社
会運動と文化運動』 黒川みどり

図書紹介

中島京子著『やさしい猫』 松本京子／高石伸人著『感
染症と差別』 塚本博和

民衆史こぼれ話 片隅に生きた人たち 44 大江磯吉研究
の基礎史料 1 石瀧豊美

リベラシオン 185 (福岡県人権研究所刊, 2022. 3) : 1,
320円

明治40年における内務省地方局の全国部落状況調査につ
いて 関儀久

崩壊していく身分制度と解放令 迫本幸二

図書紹介

朝治武・谷元昭信・寺木伸明・友永健三編著『続 部落
解放論の最前線—水平社100年をふまえた新たな展望—』

森山沾一／庵功雄著『やさしい日本語：多文化共生社
会へ』 松本京子

解放教育の「停滞期」における「外部」での課題 2—自
主的・民主的同和教育論者への批判を中心として— 板
山勝樹

民衆史こぼれ話 片隅に生きた人たち 45 大江磯吉研究
の基礎史料 2 石瀧豊美

和歌山研究所通信 75 (和歌山人権研究所刊, 2022. 1)

『星影のワルツ』の真実 藤里晃

光の当たらない子ども達に光を当てる大人、社会を 尾
上伊織

特集 部落地名裁判と「差別されない権利」

判決文から感じる突き放されたような冷たさ 上川多実／大きな不安を残した判決 高岩智江／「全国部落調査」復刻版裁判の判決について 吉岡あや／「全国部落調査」裁判を取材して 北野隆一／部落アウティング裁判地裁判決の意義と課題 李嘉永／判決後のモニタリング・削除状況と今後の課題 川口泰司

識字運動の担い手たちが語る 14 識字があるから元気に生きられている 山本はつ美さん（和歌山県善明寺識字教室） 編集：森実

書評 小川秀幸著『虹のむこうには 為さん・大作さんの言葉—ハンセン病取材二十年の記録』 矢野宏

ひょうご部落解放 181（ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2022.3）：990円

人権啓発研究第42回兵庫県集會報告書

記念講演 コロナ禍の貧困の現場から見えてきたもの 雨宮処凛／シンポジウム 格差社会を考える 齋本郁, 神原文子, 宮前千雅子

ひょうご部落解放 182（ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2022.3）：990円

特集 「全国部落調査」復刻版出版事件裁判

ネット上に被差別部落の地名をさらす行為に判決—原告・部落解放同盟、半ばの勝利 橋本貴美男／講演録 全国部落調査裁判—東京地裁裁判に寄せて 部落差別の実態と法の論理をどうつなぐのか 阿久澤麻理子

小特集 続・アートと人権

「戦時の社会」と戦争画—一日中戦争から太平洋戦争へ 河田明久／芸術鑑賞における情報保障 田中みゆき 懐かしき部落民宣言の回顧 朝治武

インタビュー 麻田光広理事長にきく—八鹿闘争を中心に 編集部

追悼 橋本幸雄さん（ひょうご部落解放・人権研究所初代理事長） 高吉美

本の紹介

朝治武・谷元昭信・寺木伸明・友永健三編著『続 部落解放論の最前線 水平社100年をふまえた新たな展望』 北川真児／鄭喜鎮編著他『#MeTooの政治学 コリア・フェミニズムの最前線』 影本剛／キム・ジへ著『差別はたいてい悪意のない人がする 見えない排除に気づくための10章』 きしもとさえき

福音と世界 第77巻3号（新教出版社刊, 2022.3）：660円

特集 部落解放—歴史と可能性

部落解放にかかわる五つの論点 友常勉／人種主義としての部落差別 黒川みどり／部落問題をめぐる差別の連鎖 藤野豊／東九条と部落問題 前川修／部落女性、折り重なるスティグマを乗り越えて 川崎那恵／差異の絶対性、生成する力—反-差別のための作動配列 守中高明

佛教大学総合研究所紀要 29（佛教大学総合研究所刊, 2022.3）

在日朝鮮人の移動と定着—京都市楽只学区を事例に— 高野昭雄

部落解放 815（解放出版社刊, 2022.1）：600円

特集 「全国部落調査」復刻版出版事件裁判判決

本の紹介

山口県人権啓発センター編『入門 山口の部落解放志』 割石忠典／森山沾一『山本作兵衛と世界遺産のまち 筑豊・田川万華鏡』 岩本陽児

リレーエッセイ 水平社100年に想う 11 「水平」に他者と出会える未来のために 鈴木英生

春告鳥は地を這う 戦後部落解放運動史の検証と再考 15 反差別国際運動の結成と第三期部落解放運動の提唱 谷元昭信

部落解放 816（解放出版社刊, 2022.1）：1,000円

第52回部落解放・人権夏期講座報告書

部落解放 817（解放出版社刊, 2022.2）：600円

特集 識字運動の原点から未来をひらく

リレーエッセイ 水平社100年に想う 12 「人間を勤はる事が何んであるか」を知るからこそ、子どもたちとともに 濱口亜紀

偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 13 台風避難でも除け者にされて 福岡安則

春告鳥は地を這う 戦後部落解放運動史の検証と再考 16 歴史的な激変を見せる国内外情勢と部落解放運動 谷元昭信

部落解放 818（解放出版社刊, 2022.2）：1,000円

部落解放研究第54回全国集會報告書

部落解放 819（解放出版社刊, 2022.3）：600円

特集 全国水平社創立100周年

座談会 これからの解放運動 赤井隆史・片岡明幸・山崎鈴子・吉岡正博・西島藤彦／水平運動史研究の新たな論点 全国水平社創立の思想と被差別マイノリティとの関係 駒井忠之・黒川みどり・渡辺俊雄・朝治武

本の紹介 そのだひさこ編『絵本 いのちの花が生まれてた!!実践事例集』 中村久子

リレーエッセイ 水平社100年に想う 13 燕神社から見た風景 明戸隆浩

部落の文化を生きる 作田晃さんをたずねて 編集部

偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 14 金城雅春、愛楽園に死す 福岡安則

春告鳥は地を這う 戦後部落解放運動史の検証と再考 17 同盟組織の若干の混乱と人権政策の着実な前進 谷元昭信

部落解放 820（解放出版社刊, 2022.4）：600円

特集 いま学級・集団づくりがなぜ重要か

本の紹介 磯前順一、吉村智博、浅居明彦監修『シリーズ宗教と差別 第1巻 差別の構造と国民国家—宗教と公共性』 磯前順一

リレーエッセイ 水平社100年に想う 14 朝鮮人であることを誇りうるとき 孫弘樹

私はなぜ、ネットの差別書き込みを提訴したか 繰り返される「言葉の暴力」を食い止めるために 安田菜津紀

偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 15 娘だけでなく孫娘までも 福岡安則

春告鳥は地を這う 戦後部落解放運動史の検証と再考 18

題解決の歩みを冒瀆するラムザイヤー論文 石倉康次／
全国水平社創立100周年と人権連運動の展望／資料 全国
水平社創立100周年記念アピール

八鹿高校事件から半世紀 第二章 生徒がつづる八鹿高校
と高校生活 6 私の体験した高校生活と八鹿高校事件 木
村剛

写真で見る水平運動史 12 四 暴圧・恐慌・戦争に抗し
て 12 「人民的融和への道」と反ファッション闘争 尾川
昌法

2021年度『人権と部落問題』総目次 (946号～957号)

人権と部落問題 958 (部落問題研究所刊, 2022. 4) :
660円

特集 18歳から成年

文芸の散歩道 『舞鶴湾の風』創作に至るまで 菱崎博
八鹿高校事件から半世紀 第二章 生徒がつづる八鹿高校
と高校生活 7 八鹿高校事件と八鹿高校生 濱道生

写真で見る水平運動史 13 四 暴圧・恐慌・戦争に抗し
て 13 水平社の消滅 尾川昌法

季刊人権問題 406 (兵庫人権問題研究所刊, 2022. 1) :
800円

インターネット上の「部落問題」を考えるー「全国部落
調査」復刻・出版等をめぐる東京地裁判決も踏まえてー
新井直樹

振興会通信 162 (同和教育振興会刊, 2022. 1)

水平社運動100年の今日的意義について 赤松徹眞

同朋運動史の窓 68 左右田昌幸

信州農村開発史研究所報 156・157・158号 (信州農
村開発史研究所刊, 2021. 12)

1957年頃の小諸市民の部落観 1 斎藤洋一

信州農村開発史研究所報 159号 (信州農村開発史研
究所刊, 2022. 3)

1957年頃の小諸市民の部落観 2 斎藤洋一

崇仁～ひと・まち・れきし～ 13 (崇仁発信実行委員
会刊, 2022. 3)

特集 崇仁南側を辿る 銭座跡村とその周辺

崇仁小学校と水平社創立大会ビラ 走井徳彦

月刊スティグマ 308 (千葉県人権センター刊, 2022. 3) :
500円

差別とは何か、偏見とは何か 9 福岡安則

月刊地域と人権 453 (全国地域人権運動総連合刊, 20
22. 1)

部落解放運動100年の歴史 6 丹波正史

月刊地域と人権 454 (全国地域人権運動総連合刊, 20
22. 2)

全国水平社運動の教訓から全国人権連運動の役割を考え
る～全国水平社結成100周年を迎えて～ 村上保

月刊地域と人権 455 (全国地域人権運動総連合刊, 20
22. 3)

全国水平社創立百周年 部落解放運動100年の歴史 7 丹
波正史

月刊地域と人権 456 (全国地域人権運動総連合刊, 20
22. 4)

岡山県就職差別撤廃共闘会議結成50年のとりくみから学
ぶもの 中島純男

地域と人権京都 852 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 1. 1) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 39 川部昇

地域と人権京都 853 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 1. 15) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 40 川部昇

地域と人権京都 854 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 2. 1) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 41 川部昇

地域と人権京都 855 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 2. 15) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 42 川部昇

地域と人権京都 856 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 3. 1) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 43 川部昇

地域と人権京都 857 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 3. 15) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 44 川部昇

地域と人権京都 858 (京都地域人権運動連合会刊, 20
22. 4. 1) : 150円

戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革 45 川部昇

であい 717 (全国人権教育研究協議会刊, 2021. 12) : 1
60円

人権文化を拓く 289 まっとうな移民政策を！ 鳥井一平

であい 718 (全国人権教育研究協議会刊, 2022. 1) : 1
60円

「一休さんのとんち話」が問うもの～2021年度大阪府中
3チャレンジテスト国語への出題をめぐって～ 古川正博
人権文化を拓く 290 SDGsと教育？質の高い教育を
みんなに？ 柏木智子

であい 719 (全国人権教育研究協議会刊, 2022. 2) : 1
60円

人権文化を拓く 291 コロナ禍で深刻化する少女に対する
性搾取 仁藤夢乃

であい 720 (全国人権教育研究協議会刊, 2022. 3) : 1
60円

「一休ばなし」～指導上の留意点～ 友兼善治

人権文化を拓く 292 冊子『トランスジェンダーのリアル』
制作に寄せる願い 土肥いつき

ヒューマンライツ 406 (部落解放・人権研究所刊, 20
22. 1) : 550円

特集 新型コロナウイルスと新たな差別ーワクチン接種
に伴う差別・ハラスメント

識字運動の担い手たちが語る 13 生き方をかえた識字学
級(後編) 中村美智代さん(宝塚市立第一隣保館) 編
集: 小原武次郎

書評 志村康著/北岡秀郎編集・構成『人間回復ーハンセ
ン病を生きる』 遠藤隆久

ヒューマンライツ 407 (部落解放・人権研究所刊, 20
22. 2) : 550円

玉虫色を生きる—交差する差別と特権 瀬戸 徐 映里奈
講演録 インターネットにおける部落差別の現状と課題
～「全国部落調査」復刻版出版差止事件が私たちに問い
かけるもの～ 山本志都
男の育児は“よくばり”か 育休を振り返って思うこと
田川朋博
みんなの架橋～架橋でめぐる全国の人権機関～ 全国水
平社創立100周年—水平社の「熱」と「光」を学ぶ— 水
平社博物館
語る・かたる・トーク 322 (横浜国際人権センター刊,
2021.12) : 550円
語る・かたる・エッセー 中高生とともに差別と闘う
「ジメキの未来」 吉成タダシ
部落史 学び直し 問い直しのススメ 9 求められた部落
史学習の見直し 外川正明
語る・かたる・トーク 323 (横浜国際人権センター刊,
2022.1) : 550円
語る・かたる・エッセー 中高生とともに差別と闘う
「数学と人権」 吉成タダシ
部落史 学び直し 問い直しのススメ 10 学生たちの体験
に教えられ 外川正明
語る・かたる・トーク 324 (横浜国際人権センター刊,
2022.2) : 550円
語る・かたる・エッセー 中高生とともに差別と闘う 受
験がゴールではない 吉成タダシ
部落史 学び直し 問い直しのススメ 11 差別する側の問
題として 外川正
語る・かたる・トーク 325 (横浜国際人権センター刊,
2022.3) : 550円
語る・かたる・エッセー 中高生とともに差別と闘う 差
別を憎んで人を憎まず 吉成タダシ
部落史 学び直し 問い直しのススメ 12 擦り込んでいた
隠れたメッセージ 外川正明
きょう☆COLOR 16 (京都市共生社会推進室刊, 2021.12)
もうすぐ全国水平社創立宣言100周年
京都府立大学学術報告 人文 73号 (京都府立大学刊,
2021.12)
橋本遊郭の遊客と娼妓—遊客帳の分析から— 竹中友里代
グローブ 108 (世界人権問題研究センター刊, 2022.1)
全国水平社創立宣言100周年記念号
人権ゆかりの地ガイド「全国水平社創立の地」 井岡康時
陰陽道研究の新展開—「新陰陽道叢書」刊行をめぐって
梅田千尋
芸備近現代史研究 6 (芸備近現代史研究会, 2022.1)
広島県東部地域における戦後の部落解放運動—1948年～
1961年— 今岡順二
吉和中学校差別事件から七〇年 割石忠典
竹匠石田涇源(繁春)と「みらさか竹工房はなかご」
瀬川政博
藤本誠二さんを偲んで 藤本秀雄, 廣中一成
香渡清則さんを偲んで 石村政利, 福田潤, 吉岡秀喜
現代民俗学研究 12 (現代民俗学会刊, 2020.3) : 2,5

00円
特集 民俗学的「差別」研究の可能性—「日常」からの
アプローチ
「部落産業」をとりまく変化—東京都墨田区の皮鞣し業
を事例に— 岡田伊代/いかにして「男性同性愛」は
「当たり前」でなくなったのか—近現代鹿児島事例分
析— 辻本侑生/訴訟と共生—東京都国立市公民館コー
ヒー
ハウスにおける「障害」— 入山頌
国際人権ひろば 161 (アジア・太平洋人権情報センタ
ー刊, 2022.1)
特集 気候変動と人権
国連人権ひろば 162 (アジア・太平洋人権情報センタ
ー刊, 2022.3)
特集 「ビジネスと人権」をめぐる最新の動向
在日朝鮮人史研究 51 (在日朝鮮人運動史研究会編, 2
021.10) : 2,400円
「内鮮協定」と戦時期の渡航管理政策について—1930年
代末を中心に 福井讓
大阪空襲と朝鮮人—戦中、そして戦後 塚崎昌之
戦後電源開発と朝鮮人労働者—国鉄士幌線付替工事を事
例に 上田文夫
日本人家庭に生まれく韓国人>として生きた山梨県在住
女性のライフヒストリー 鮎澤讓
資料紹介 脇野義雄「内地行朝鮮人労働者の概況」 樋口
雄一
試行社通信 423 (八木晃介刊, 2022.1)
水平社百年の現在 もう私は一人で運動する
人権と部落問題 955 (部落問題研究所刊, 2022.1) :
660円
特集 GIGAスクール構想って何だ!
本棚 丹波真理著『「部落」は今どうなっているのか』
石倉康次
文芸の散歩道 河上肇の晩年—短歌・漢詩など— 福地秀雄
八鹿高校事件から半世紀 第一章 八鹿高校事件の舞台と
全体像 四 朝来事件・八鹿高校事件 東上高志
人権と部落問題 956 (部落問題研究所刊, 2022.2) :
660円
特集 アイヌ民族の先住権と人権保障を求める闘い
写真で見る水平運動史 11 四 暴圧・恐慌・戦争に抗し
て 11 解消論を克服し、部落委員会活動へ 尾川昌法
文芸の散歩道 柴田啓蔵作 幻の小説『糾弾』—島崎藤村
に励まされて綴った水平社同人の力作の不運— 桑原律
第59回部落問題研究者全国集会の報告 2021年10月23日・
24日
八鹿高校事件から半世紀 第一章 八鹿高校事件の舞台と
全体像 5 私が見聞した八鹿高校の同和教育 東上高志
人権と部落問題 957 (部落問題研究所刊, 2022.3) :
660円
特集 全国水平社創立100周年の展覧
全国水平社創立とは何だったのか—その歴史的意義—
西尾泰広/水平社運動と木村京太郎 奥山峰夫/部落問

収集逐次刊行物目次 (2022年1月～3月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

- アイユ 367** (人権教育啓発推進センター刊, 2021.12)
部落差別と結婚差別 12 結婚差別の相談事業から見えてきたもの 大賀喜子
- 朝田教育財団だより 36** (朝田教育財団刊, 2022.1)
兵庫県たつの市における部落の生活実態調査と課題解決 吉田善太郎
- 明日を拓く 132** (東日本部落解放研究所刊, 2022.3) : 1,000円
特集 1 ラムザイヤー論文の問題点を検証する
ラムザイヤー問題とは—その経過・問題点・今後の課題— 吉田勉/ラムザイヤー論文への反論・部落史の立場から 鳥山洋/ラムザイヤー論文への反論・社会学と同和教育の立場から 日本の部落問題研究・政策へのインパクト 阿久澤麻理子/ラムザイヤー論文への反論・英語圏の研究者の立場から クリストファー・ボンディ/ラムザイヤー論文への反論・英語圏の研究者の立場から トム・ギル/日本公娼制/植民地公娼制研究から 金子子
特集 2 埼玉県での人権意識調査から見えてくること 差別されない権利を求めて—全国部落調査復刻版出版差止訴訟第一審判決 前田朗
- 鷹陵史学 47** (鷹陵史学会刊, 2021.9)
轅町と若中—近世末から明治初期の祇園祭神輿渡御の担い手たち— 中西仁
- 解放新聞 3015** (解放新聞社刊, 2022.1.25) : 115円
水平社101年目からを展望する連続講座 展望編 1・2 本の紹介 朝治武ほか編著『続・部落解放論の最前線 水平社100年をふまえた新たな展望』 赤井隆史
- 解放新聞 3016** (解放新聞社刊, 2022.2.5) : 115円
水平社101年目からを展望する連続講座 展望編 3
- 解放新聞大阪版 2264** (解放新聞社大阪支局刊, 2022.1.5)
コロナ禍の暮らしアンケート 1
- 解放新聞大阪版 2265** (解放新聞社大阪支局刊, 2022.1.15)
コロナ禍の暮らしアンケート 2
- 解放新聞大阪版 2266** (解放新聞社大阪支局刊, 2022.1.25)
コロナ禍の暮らしアンケート 3
- 解放新聞大阪版 2267** (解放新聞社大阪支局刊, 2022.2.5)
コロナ禍の暮らしアンケート 4
- 解放新聞京都版 1225** (解放新聞社京都支局刊, 2022.2.15) : 70円
『六区支部結成50年のあゆみ』刊行
- 解放新聞東京版 1012** (解放新聞社東京支局刊, 2022.3.1) : 110円
東京の同和教育のあゆみ 3 松浦利貞
- 解放新聞東京版 1013** (解放新聞社東京支局刊, 2022.4) : 110円
東京の同和教育のあゆみ 4 松浦利貞
- 解放新聞奈良県版 1160** (解放新聞社奈良支局刊, 2022.1.10) : 50円
「山内そして曙～わがムラの来し方～」を作成して 巽千津子
- 解放新聞広島県版 2411** (解放新聞社広島支局刊, 2022.1.15)
小森龍邦 わが闘魂の半生 32
- 解放新聞広島県版 2416** (解放新聞社広島支局刊, 2022.3.5)
小森達邦 わが闘魂の半生 33
- 解放新聞広島県版 2417** (解放新聞社広島支局刊, 2022.3.15)
小森達邦 わが闘魂の半生 34
- 解放新聞広島県版 2418** (解放新聞社広島支局刊, 2022.3.25)
小森達邦 わが闘魂の半生 35
- 架橋 46** (鳥取市人権情報センター刊, 2022.2)
特集 「私の生き方、考え方」—差別と向き合うということ—
私が差別と闘ってきた理由 澤井未緩/ノト 関根摩耶/

事務局よりお知らせ

◇今年度の「差別の歴史を考える連続講座」のお知らせを掲載しました。新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては連続講座の日程変更もしくは中止の場合があります。お手数ですが、参加ご希望の方は必ず連絡先を明記の上、メール・FAXにてご連絡ください。

- 所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター3階
□TEL/FAX 075-415-1032 □E-mail qm8m-ndmt@asahi-net.or.jp
□URL <http://shiryo.suishinkyokai.jp>
□開室日時 月曜日～水曜日・金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)
□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩5分